

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

コロナ禍の在留外国人

宮城県で暮らす外国人は約24,000人。新型コロナウイルスが発生し、世界各地で感染が広がっている中、宮城県在住の外国人がどう過ごしているのか、6月初めに各グループの方々へオンラインにてお話を伺いました。



イスワユディさん(インドネシア出身)
東北家族 KELUGA TOHOKU 創設者

日本人と結婚した東北在住のインドネシア人が2009年に創設した親睦団体「東北家族」は、当初は9人でしたが、2020年6月時点で800人以上のメンバーがいます。そのうちの9割が技能実習生です。東北の各地域にリーダーをおいて、メンバーからの相談に乗ったり、地域ごとの交流を深めたりしています。しかし現在は活動が止まっています。SNSでの情報交換ばかりで、顔を合わせて話ができてストレスが溜まっています。例年3月に新しいリーダーを20人ほど選出するのですが今年は保留のままです。さらにリーダーが帰国してしまったためリーダー不在の地域もあります。来日予定だった技能実習生が来られず仕事が忙しくなったメンバーがいる一方、ある水産物加工会社で働いているメンバーは、販売量が減ってしまったため5月から6月後半まで仕事が休みになっているそうです。また私たちのインドネシア人コミュニティを知って、今では東北以外にも相談がくることもあります。今年1月に来日した実習生が3月に仕事先の上司から「新しい仕事先を探して」と言われ、仕事がなくなってしまったと相談を受けましたが、問題点が多く、私たちも対応に困っています。

実は、東北家族は今年の9月に石巻市でインドネシアフェスティバルを開催する予定でした。このお祭りは東北家族のメンバー全員の夢であり、願いなのです。インドネシアの伝統舞踊や食べ物を紹介して私たちの文化を日本のみなさんに知って欲しい!交流を通じてもっと仲良くなりたい!そんなイベントを私たちの住む東北で!との思いからです。状況次第ではありますが、来年の*ラマダン明けに開催したいと考えています。日本各地にいるインドネシア人もお祭りの開催を楽しみにしていると連絡がきます。このコロナ禍を過ごしている仲間たちへのメッセージは「我慢して、頑張ら、気をつけて!」です。*ラマダン - イスラム教の重要な宗教行事。イスラム歴の9月に日の出前から日没にかけて断食をして一切の飲食、喫煙を断つ。

検索 Facebook : 東北家族 KELUARGA TOHOKU



クリシュナ ソニさん(インド出身)
東北大学留学生協会 (TUFSA) 会長



ティオ シェンフーさん(マレーシア出身)
東北大学留学生協会 副会長 東北大学国際祭実行委員長

東北大学留学生協会(TUFSA)は外国人と日本人の学生および市民と交流を行う場を提供する目的で1965年11月に設立されました。会員は総勢40名ほどです。ウェルカムパーティ、ポットラックパーティ、フットサル大会など様々なイベントを企画・実施していますが、その中でも最大のイベントは、東北大学国際祭です。毎年初夏に開催し、5,000人ももの来場
次ページに続く▼



陳強さん(中華人民共和国出身)
宮城華僑華人連合会 会長 東北大学大学院工学研究科 教授

宮城華僑華人連合会は、東日本大震災後、情報不足で不安な宮城県内の中国出身者の助け合いや地域交流を深めるため設立され、現在宮城県の華僑華人の10団体が加盟しています。新型コロナウイルスの感染流行において、私たちは中国と日本の支援活動に尽力してまいりました。1月末に募金活動を始めたところ、日本人を含む多くの人々から支援金と物資が集まり、2月に2回にわたって、マスクや手袋、防護服などの物資を武漢の病院へ送りました。当時、国際郵便の多くが止まっているなか、直接武漢の病院へ一刻も早く物資を届けたい気持ちでしたが、この手配が経験のない私たちには一苦勞でした。その後日本国内で感染が広がってから、検査率の低さや情報の少なさなどから同胞の間で不安が大きくなりました。そこで、宮城県内の中国人と地域社会へマスク配布の支援を始めました。また、6月10日に宮城県庁を訪問し、県へ1万枚のマスクを寄贈しました。

私が勤めている東北大学では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在すべての講義はオンラインで行われています。オンライン講義の実施当初は、アプリの操作に不慣れのため、講義中にいろいろなトラブルを起こしてしまい大変でしたが、2か月が経った今、だいぶ慣れてきました。いまでも学生の海外派遣や海外からの研究者、学生の受入がストップしている状況で、海外との学術交流活動は大きな影響を受けています。私の研究室に湖北省出身の学生が1人います。2月に一時帰省しましたが、日本に戻れなくなり、今は自宅でオンラインの講義と研究指導を受けて研究しています。新型コロナウイルスの早期終息を祈る毎日です。

検索 Facebook : 宮城華僑華人連合会



伊藤チャリトさん
(フィリピン出身)
気仙沼市在住)
カバヤン気仙沼
フィリピンコミュニティ代表



ラジオ収録中

東日本大震災後に、ヘルパー2級の資格を取得して介護施設のデイサービス部門に勤めています。2月ごろから私たちの施設も徐々に新型コロナウイルス対策を強化していきました。3月から小中学校が休校となり、子どもが家にいる関係で仕事に来られなくなった同僚もいました。4月初旬に気仙沼市で感染者が確認されてからは特にナーバスになりました。消毒やソーシャルディスタンスにはことさら気を遣いますし、施設内でもふだんは5人で利用するテーブルをふたりに限るなど対応をしました。

仕事中は当然ずっとマスクを着けていますが、私は介護の仕事をする前は水産加工の現場で長年働いており、そのときもずっとマスクでしたので、別に違和感はありません。認知症が進行している利用者さんの中には使い慣れないマスクを嫌って外してしまう方もいて、トラブルにならないようスタッフ全員が気をつけています。

気仙沼に住む知り合いのフィリピン人が2月ごろ一時帰国しました。今年1月にルソン島の南部で大きな火山噴火があり、火山灰被害が拡大し、ルソンでマスクが品切れになっていた時期なので、日本でたくさんのマスクを購入して、家族や知人に配ったそうです。そして、本人が日本に帰ってくると今度は気仙沼でマスクが手に入らなくなっていました。とても困って
次ページに続く▼

▼クリシュナ ソニさん、ティオ シェンフーさんの続き

者があります。今年度の開催に向けて今年の1月から準備を始めましたが、3月末に「大学の課外活動は5月の連休明けまですべて停止」との告知があり、4月5日に5月末開催予定だった国際祭りの延期を決断しました。ポスターデザインや機材の見積を依頼中で支払いは発生しておらず、ギリギリの段階でした。今も課外活動が許可されていないので、開催について判断できない状況です。

東北大学は独自の行動指針 (BCP) があり、学部生は大学構内に入ることができません。私たち留学生もステイホームで極力外出は控えてきましたが、外国人に対するコロナ差別の不安もありました。開始が遅れた新年度の授業は、1学期終了の9月まで講義がオンラインとなりました。春休み中に一時帰国したTUFSAのインドネシア人、インド人やチュニジア人メンバーは、自国でオンライン授業を受けています。残念ながら4月入学予定だった留学生のほとんどは、10月入学へ延期となりました。留学生は奨学生が多いのですが、終了が半年遅れになることで、進路を考え直す学生もいるようです。

こんな状況なのでTUFSAに参加する新メンバーはいないと思うかもしれませんが、います!日本人学生が入会しました。TUFSAはインターナショナルな団体ですから、国籍は問いません。

私たちは以前からFacebookやSlack(情報共有ツールのひとつ)などで連絡を取り合ってきましたが、今はオンラインミーティングのみです。今後状況が改善し、課外活動が許可されたら、まずはウエルカムパーティを催して親睦を深める予定です。

検索 Facebook : TUFSA (Tohoku University Foreign Students Association)

▼伊藤チャリトさんの続き

いたので少し分けてあげました。私は仕事柄マスクをたくさん必要とすることもあり、おばあちゃん(義母)の浴衣を再利用して布マスクを作ったりもしています。

日本に暮らす外国人は頻繁に日本を出たり入ったりしていると日本人から思われがちです。2月以来しばらくの間、そのことでちょっとストレスを感じていました。あの頃はみなさん、かなり神経質でしたから。

東日本大震災後に同胞コミュニティグループとしてカバヤンを立ち上げ、活動してきました。月に1回ラジオ気仙沼の番組をもっています。ここ2か月は収録もできませんでしたが、6月から再開すると連絡が来ていて、楽しみにしているところです。特別定額給付金について、国際結婚しているフィリピン人は家族に日本人がいるので特に問題がなさそうですが、最近気仙沼でも増えている技能実習生から一時期「自分はもらえるのか?」「どうやったらもらえるのか?」と声が上がっていました。

ここでは毎日防災無線でコロナウイルスに関する放送が流れます。10年前津波被害があった気仙沼で防災無線はとても大切ですので、ことばがあまり分からない同胞のために防災無線の内容をタガログ語に翻訳して、FBのグループページにアップしたりもしています。

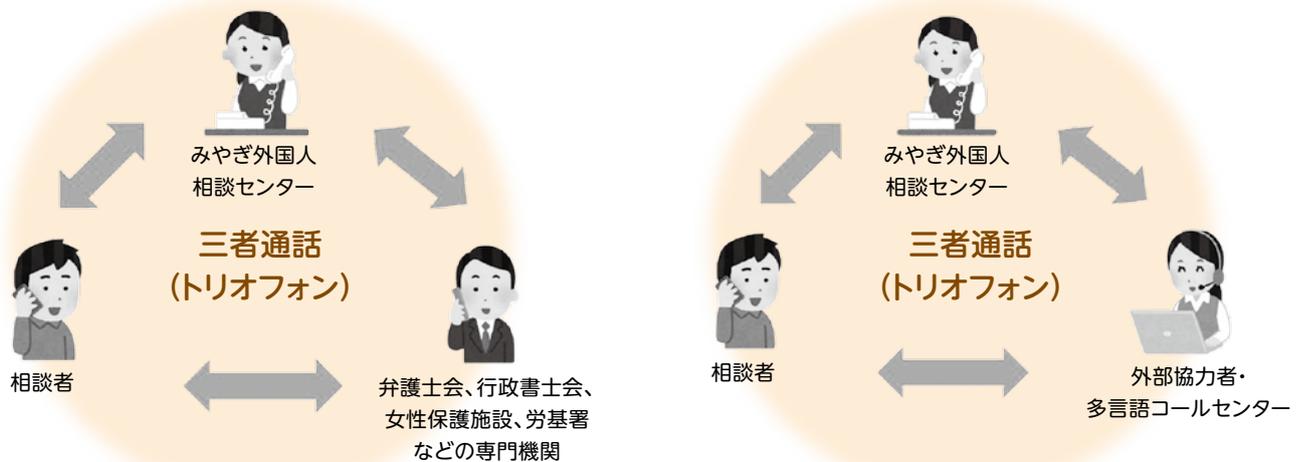
検索 Facebook : Kabayan Kesennuna Filipino Community

「みやぎ外国人相談センター」から

今回はみやぎ外国人相談センター(以下、相談センター)で導入している、3者通話(トリオフン)のシステムについてご紹介いたします。このシステムは相談者と相談センター、専門機関等の3者が1回線上で同時に話すことができるシステムです。

相談センターはMIAの職員が英語・中国語で、日替わりで勤務する相談員が他の6言語で対応しています。しかし、対応できる言語以外で相談の電話が来る日もあります。そのような場合は、MIA外国人支援通訳サポーターなどの外部協力者もしくは昨年7月に導入した多言語コールセンターに3者通話で繋がります。このシステムにより、常時日本語を含む13言語の言語で話を聞き、適切なサポートを行うことが可能となっています。

ぜひお気軽にご相談ください!



みやぎ外国人相談センター ☎ 022-275-9990

月曜日～金曜日 / 9:00～17:00

対応言語 : 中国語、韓国語、英語、タガログ語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、タイ語、ヒンディー語、日本語



MIA日本語講座2020年第2期開講!

9月からMIA日本語講座が始まります。身近に日本語を勉強したい外国人がいらしたら、ぜひご紹介ください。多言語(日英中韓越)のチラシも用意しています。*新型コロナウイルス感染防止のため、定員を少なくするなどの対策を行っています。

クラス	曜日	時間	期間	テキスト	受講料	定員
初級1・2	火～金	10:00～12:00	9月1日(火)～12月9日(水)	『日本語初級1大地』 『日本語初級2大地』	¥22,000 ※テキスト代別	初級1・2 各8人
中級	火・木	13:00～15:00	9月1日(火)～12月10日(木)	『中級へ行こう 日本語の文型と表現55』	¥11,200 ※テキスト代別	8人
夜間初級1 夜間初級2	火	18:30～20:30	9月1日(火)～1月26日(火)	『日本語初級1大地』 『日本語初級2大地』	¥12,000 ※テキスト代別	初級1・2 各8人

多文化なトピック

宮城県・仙台市 新型コロナウイルス感染症 健康相談窓口～外国語で相談できます!～ Tel:022-211-3883 & 022-211-2882

新型コロナウイルスの感染が心配な人は、宮城県・仙台市の健康相談窓口(コールセンター)に相談してください。13言語で相談できます。

- 毎日24時間
中国語・韓国語・スペイン語・
英語・ポルトガル語・日本語
- 月曜日～金曜日
8:30am-6:00pm
タイ語・ネパール語・ベトナム語・ロシア語・タガログ語・インドネシア語・ヒンディー語

*通訳について3者通話になります。

新型コロナウイルス感染症健康相談窓口
Novel Coronavirus General Consultation Hotline
=Multilingual support is available=

022-211-3883 ☎ 022-211-2882

●英語 24 hours a day
●中国語 每天24小时
●韓国語 24시간 24시간
●スペイン語 24 Horas
●ポルトガル語 24 horas por dia
●タイ語 24 ชั่วโมง
●ネパール語 24 घण्टा
●ベトナム語 24 giờ
●ロシア語 24 часа
●インドネシア語 24 jam
●ヒンディー語 24 घण्टा

ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

「私たちの宮城県 (MIYAGI PREFECTURE JAPAN)」 編集・発行:宮城県広報課

今回は、日本語学習者に身近な話題として提供できる宮城県の情報が詰まったパンフレットを紹介します。英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語と日本語版があり、宮城の食や観光などの情報が写真とともに紹介されているほか、震災、地理、農業、林業、水産業、工業、商業などに関する統計データも掲載されています。会話のきっかけや教材としてお役にしてください。



パンフレットより。
Q「その姿かたちから「海のパイナップル」と呼ばれる三陸の珍味は?」
「ムナ」V

日本語講座「オンラインで話そう!」のご報告



令和2年度第1期MIA日本語講座は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で開講を断念しました。次の第2期開講までに期間があいてしまう中で、主に「学習者の日本語学習へのモチベーションを保つ」ことを目的とし、オンライン会議システムZoomを使って日本語で会話をする対話型の学習支援を行いました。今回は昨年度第2期にMIA日本語講座を受講し、今年度第1期の受講を希望していた学習者7名を対象に、5月26日(火)から週2日程度、全6日間実施しました。

はじめは学習者1名に対して主担当と副担当の講師2名が参加する形を取り、以降は学習者の日本語レベルに合わせて学習者を複数にするなどして実施しました。今回の試みは初めて尽くしで、MIAも学習者もZoomをどう使うのかを学ぶところから始まり、どのような形で学習を支援するのか手探り状態で、試行錯誤しながら進んでいきました。Zoomが繋がらない、繋がっても音が聞こえない・映像が映らないなどの何かしらのハプニングがあったものの、毎回色々な気づきがありました。学習者からは、「コロナの状況下でも先生やクラスメートと話せてうれしかった」「とても楽しい時間だった」「日本語で会話をする事で文法の勉強にもなった」等の感想を頂きました。



世界の国旗を貸し出します!

MIAでは、掲揚旗と卓上旗の貸出しを行っています。MIAが所持している国旗は、掲揚旗(90cmx135cm)が181か国、卓上旗(24cmx16cm)が188か国です。①地方公共団体、②宮城県内に事務所等活動の拠点がある国際交流団体、③当協会の企業賛助会員などへ貸し出します。貸出しを希望される場合は、電話または来所にて国旗の予約状況をご確認の上、「国旗借用書」をご提出ください。(書式はMIAのHPよりダウンロードできます。)貸出費用は無料ですが、来所の受取/返却でない場合は送料をご負担願います。詳しい情報については、MIAまでお問合せください。



みやぎの国際活動団体

「ブラジル国花 イペー 仙台で開花」



イペーとふく子さん

5月中旬、元宮城県海外移住家族会会長の吉田ふく子さんから、「うちの境内にブラジルの国花イペーの花が初めて咲いたよ」と連絡をいただき、早速、仙台市青葉区新寺の洞林寺へ向かいました。ふく子さんが、最後の会長を務めた宮城県海外移住家族会は、平成30年度をもって解散しましたが、当協会の前身「宮城県海外協会」とともに、南米からの県費留学生や海外技術研修員との交流を図るなど、民間レベルの「心のかけ橋」として大変重要な役割を担っていただきました。ふく子さん自身も、昭和38年、移住花嫁でブラジルへ渡り、夫である洞林寺の先代住職さんとともに、日本人移民への布教活動や幼児教育を行い、昭和45年の帰国後には、家族会の活動に尽力されました。洞林寺に苗木が植えられた時には、50センチだったものが、4年の歳月を経て、鮮やかな黄色の花を咲かせ、新型コロナウイルス感染拡大という暗いニュースが続く中、見る人の心を和ませ、勇気づけました。今年、残念ながら、生のイペーを見られなかった方は、来年を楽しみにしてください。もっと「いっぺえ」の花が咲くはずですよ。



イペーの花

サポーターの声

和田牧子さん MIA日本語サポーター



ホワイトボードに書きながら画面越しに話しています。

今年5月に南三陸町にお住まいのアメリカ人女性を紹介いただき、毎週土曜日の午前にはオンラインツールを使って遠隔で日本語サポート活動を行っています。まだ数回ですが、いまのところ全く不都合は感じていません。現状、対面であればマスク着用が欠かせないところですが、遠隔なのでその必要もなく、おかげで発音の口元はクリアに見えますし、表情もはっきり分かるのでむしろ良いのではと思っています。画面共有機能を使えばお互いの手元のテキストや資料などを見せ合うこともできますし、文字で情報を伝えるチャット機能も便利そうです。音声のずれ、時差もほとんど気にならず、学習者ともどもとても楽しんで学習サポートができています。以前MIAから紹介された日本語サポーターさんとはなにかの折りに疎遠になってしまい、そのまま自然消滅状態だったと聞きました。私の住みは県南部ですが、オンラインであればお互い移動の苦勞もなく、とても気軽です。

MIA日本語サポーターとは...

日本語を学習したい宮城県内に住む外国人にマンツーマンで日本語を教えるボランティアです。登録者は随時募集しています。詳しくはMIAまでお問い合わせください。

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人の輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費
個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円
- 賛助会員の特典
◎ 協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の定期送付(年6回)
- ◎ 当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎ 個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
宮交観光サービス(株)
- ◎ 企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- 入会方法
◎ 本協会あて御連絡ください。
◎ 所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.110

編集・発行
公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL <http://mia-miyagi.jp>

